

第二学年 国語科学習指導案

日時 令和六年 十月 二十一日(月)
場所 郡上市立白鳥中学校(二年三組教室)
学級 二年三組(男子十九名・女子十名 計二十九名)
授業者 高橋 雅人

一、単元名「論理を捉えて」 教材名「根拠の適切さを考えて書く」 意見文を書く」

二、単元および教材について

本教材は、社会的な課題を取り上げ、自分の立場を明らかにして意見文を書くものである。伝えたい事実や事柄が明確になるように工夫し、読み手に効果的に伝わることを意図して書くことができるようにする。読み手に自分の意見を納得してもらうためには、意見を支える根拠やその根拠に基づいた解釈を述べ、意見と根拠との関係性に整合性をもたせることが大切である。そのために、意見と根拠の関係の妥当性について吟味し、適切な根拠を示すことができるようにしたい。また、意見に対する反論を想定し、それに対する意見を述べることで説得力が増すことを理解できるようにしていきたい。

三、生徒の実態

生徒は、第一学年「根拠を示して説明しよう 資料を引用してレポートを書く」において、説得力のあるレポートを書くために、具体的な事実を示しつつ情報を整理して伝えること、仮説を立てて情報を収集し、複数の情報を比較したり結び付けたりしながら理由付けをすることを学習している。この単元の学習を通して、着眼点を明確にして調査をし、調査の結果から考えたことを書くことができるようになってきた。また、資料やデータを適切に引用して確かな根拠を示すことで、説得力を高め、より効果的に自分の考えを伝えられることも学んできた。

しかし、完成したレポートを見ると、自分の考えと整合性のない根拠を取り上げたり、根拠が資料やデータの引用のみになって、根拠に対する自分の意見が書けていなかったりしている生徒が多かった。これは、仮説に対してどのような情報を収集すればよいのか、根拠としてどのような情報を用いて、どのように書くと説得力が高まるのかという理解に課題があるからだと考える。

そこで、本単元では、説得力を高めるために、意見と根拠のつながりの重要性を理解して自分の意見を記述することができるようにしていきたい。また、読み手は必ずしも自分と同じ立場ではないことを踏まえ、自分の意見を明確に伝えるために適した情報を選択したり、反論を想定して反論に対する意見を提示したりすることができるようにしたい。

四、「生きてはたらく言語能力」の育成について

中学校学習指導要領解説【思考力・判断力・表現力等】「B 書くこと」(中)第二学年より

○イ 伝えたいことが分かりやすく伝わるように、段落相互の関係を明確にし、文章の構成や展開を工夫すること。

◎ウ 根拠の適切さを考えて説明や具体例を加えたり、表現の効果を考えて描写したりするなど、自分の考えが伝わる文章になるように工夫すること。

学習指導要領「イ 伝えたいことが分かりやすく伝わるように、段落相互の関係を明確にし、文章の構成や展開を工夫すること」を、「意見と根拠の関係に留意し、伝えたいことに合わせて段落の役割や順序を工夫することができる」と具体化した。「双括型」による構成法のよさを理解した上で、自分の意見に合わせて根拠や反論を想定した意見などの展開を検討していく。

学習指導要領「ウ 根拠の適切さを考えて説明や具体例を加えたり、表現の効果を考えて描写したりするなど、自分の考えが伝わる文章になるように工夫すること」を、「根拠が意見を支えるものになっているかに留意しながら、根拠を具体的に記述することができると具体化した。意見と根拠をつなぐ考えを明確にしたり、根拠の適切さを吟味したりしていく中で、説得力を高めていく。

五、研究に関わって

研究内容(1) 指導計画の工夫

①指導計画と評価計画を組み合わせた単元構想表の作成と活用

指導計画を作成する際、指導事項、学習活動、評価規準、評価方法などを一つの表にまとめて単元構想表を作成した。単元構想表を作成することで、指導事項が明確になると同時に、生徒に身に付けさせたい力が明確になり、重点的な指導をしていくことができる。また、評価を記録に残す授業と評価を指導に生かす授業とを明確にし、単元構想表の中に、評価計画を位置付けた。どんなことを評価し、どのように活用するのかが明確になり、指導と評価の一体化を図ることができた。

②生徒が書く魅力や必然性を感じる題材や言語活動の更なる工夫

本校では、第二学年の総合的な学習の時間において、「ふるさと郡上を守る」持続可能な社会に向けた人々の営み」というテーマのもと、持続可能な社会を形成する一員としての自覚をもち、自己の生き方につなげていくことを意図した学習を行っている。また、生徒会活動として、地域でのあいさつ活動やボランティア活動、白鳥おどりの活性化に向けた地域貢献活動などを積極的にを行っている。さらに、郡上市では、例年十一月に「青少年の作文」を募集している。そこで、学校生活や地域活動を通して感じたこと、考えたこと、疑問に思ったことなどを踏まえて、郡上市の活性化に向けた意見文を書き、「郡上市青少年の作文コンクール」に応募するという言語活動を位置付ける。

また、単元の前半で、教科書に掲載されている「意見文の例」を活用して、「学習の窓」にまとめられている書き方を身に付けることで、自分の意見文に生かせるようにした。そうすることで、誰でも、どの学校でも、「できそうだ」と思える汎用性のある単元にできると考えた。

研究内容(2) 指導・援助の工夫

①生徒が「主体的・対話的で深い学び」を獲得するための指導の工夫

本単元では、タブレット端末を活用して収集した情報を整理したり、構成を検討したりする。タブレット端末を活用することによって、容易に加除修正ができるようになった。その便利さが生徒の学習への抵抗感を和らげている。加えて、思考ツールを活用することで、思考の過程を可視化して共有することができるようになった。そのため、どの子にとっても、見通しをもちながら主体的に学習が進めていけるよさがあると考ええる。

また、単位時間ごとのねらいや場面に応じて、学習形態を工夫した。根拠が適切であるか吟味する活動では、同じ立場同士のグループで交流を行い、自らの主張を交えながらアドバイスしたり仲間からアイデアを得たりすることができるようにする。

②「どの子」にも、生きてはたらく言語能力を身に付けるための手立ての工夫

本単元は、「教科書を活用しながら書き方を学ぶ」前半と「前半で身に付けた書き方を生かして書く」後半で構成した。単元の前半は、書き方を学ぶ「トレーニング編」、後半は、自分の意見を述べる「実践編」とした。単元の前半で構成のポイントや、意見をより明確に伝えるための書き方を身に付けることで、書くことを苦手としている生徒が苦手を克服できるようにしたり、どの子も自分の意見を支える根拠を具体的に記述したりすることができるように工夫した。また、単元の後半に自分の意見を述べる「実践編」を位置付けた。「実践編」では、特に、書くことを得意としている生徒が自分の得意を伸ばせるようにしたいと考えた。

研究内容(3) 評価の工夫

①単元や単位時間の終末における自己の高まりを実感できる評価の在り方

単位時間の終末では振り返りの時間を設け、タブレット端末を用いて、「自分」「仲間」「今後」の視点で振り返りを記述していく。「自分」の視点では、課題解決に向けて分かったことやできたこと、「仲間」の視点では、仲間との関わりで気付いたことやアドバイスをもたらしたこと、「今後」の視点では、今後の学習に生かしていきたいことを記述する。本時の自己の高まりを実感するとともに、今後「こんなことができそうだ」「こんなことをやってみよう」という意欲をもたせたい。また、ロイロノートに単位時間ごとの学習カードを蓄積することで、生徒自身が単元の学習内容を見通したり振り返ったりしながら、自己の高まりを実感することができるように工夫した。

単元構想表 (ver.3.2)

学年 → ① ② ③ 領域 → A B C
 言語活動例 → ア イ ウ 他 指導事項順

(第2学年) 単元名: 「根拠の適切さを考えて書こう」

指導者: 郡上市立白鳥中学校 教諭 高橋 雅人

All Clear

言語活動例			学年	領域	記号	多様な考えができる事柄について意見を述べるなど、自分の考えを書く活動。			All Clear						
指導事項			2年	B領域	ア	言語活動	重点化	学習活動	評価規準・評価方法等	留意点 他	時	編			
2年	B領域	ウ	導入(学習への見通し)			「郡上市青少年の活性化作文コンクール」の意見に文を書き、応募しよう。			・本単元で身に付けたい資質・能力や学習の流れについて知る。 ・「郡上市青少年の作文コンクール」の趣旨や応募方法等を知る。 ・教科書の例題(コンビニエンスストアの24時間営業)を使って学習の見通しをもつ。	◇[知識・技能 (1) オ] ・双括型による構成や確かな根拠を挙げることにより説得力が高まることを理解している。 【ノート】	(指) 郡上市青少年の作文コンクール「実施要項」をもとに趣旨や応募方法等を説明する。 (教) 教科書の例題(コンビニエンスストアの24時間営業)を使用する。	① ②	トレーニング編		
			考えの形成、記述				◎	・自分の説得力のある意見文にするために、反論とそれに対する意見を記述する。	◇[思考・判断・表現 B ウ] ・根拠の適切さを考えて反論想定を加え、自分の意見が伝わる文章にしている。 【練習シート】	(指) 学習場面に応じて、3人グループや全体交流などの学習形態を工夫する。 (教) ロイノートで書き方を示す補助シートを作成する。	本時 ③				
			題材の設定、情報の収集、内容の検討					・「地域活動に参加する中で考えたこと」の中から課題を決定する。 ・課題に関する情報を収集し、情報を分類・整理する。	◇[思考・判断・表現 B ア] ・目的や意図に応じて、社会生活の中から題材を決定し、材料を収集・整理している。 【情報収集シート】	(指) 地域貢献活動や総合的な学習の時間の取組、社会科の地理分野における既習事項を想起させ、身近な話題から課題を決めるように助言する。 (教) 岐阜県環境生活部統計課の「統計からみた郡上市の現状」や、郡上市の「統計の部屋」に掲載されている資料を用意する。	④				
			構成の検討				○	・意見と根拠の関係に留意しながら説得力のある論理の展開を考えたり、引用する資料を検討したりしながら構成を考える。	◇[思考・判断・表現 B イ] ・伝えたいことが分かりやすく伝わるように、意見と根拠の関係を明確にし、文章の構成を検討している。 【構成シート】	(教) 参考資料として、岐阜県環境生活部統計課の「統計からみた郡上市の現状」や、郡上市のホームページ「統計の部屋」を紹介する。	⑤				
			考えの形成、記述				◎	・構成に沿い、根拠は自分の意見を支えるのに適切か、意見と根拠につながりがあるかどうかを吟味しながら記述する。	○[思考・判断・表現 B ウ] ・意見と根拠のつながりをもたせることで、自分の意見が明確に伝わる文章を記述している。 【意見文シート】 ○[主体的に学習に取り組む態度] ・粘り強く根拠の適切さを検討して記述している。 【観察、振り返りの記述】	(評) 判断や評価の根拠が明確になっているかどうか、資料を適切に引用できているかを文章の内容から評価する。	⑥ ⑦				
			推敲					・伝えたい内容に適している表現や構成になっているかを、自分自身と仲間との交流で確認し、推敲する。	○[思考・判断・表現 B エ] ・読み手の立場に立ち、意見と根拠の関係の妥当性を確認し、文章を整えている。 【意見文シート】	(指) 推敲シートを活用しながら確認する。 (評) ロイノートを用いて、修正箇所から評価を行う。	⑧				
			共有					・意見文を読み合い、根拠の適切さや説得力を高める工夫について、仲間と共有する。	○[思考・判断・表現 B オ] ・意見と根拠の関係の妥当性の視点から文章のよい点や改善点を見出している。 【交流シート】	(評) ワークシートへの記述内容を中心に評価する。	⑨				
			まとめ(学習の振り返り)					・この単元で身に付けた力について「振り返りシート」に記入する。	・自己の変容を捉え、今後に生かそうとしている。 【振り返りの記述】	(指) 単元全体を通しての振り返りを行う。	⑨				
			関連する[知識及び技能]				2年	(1)	オ	単語の活用、助詞や助動詞などの働き、文の成分の順序や照応など文の構成について理解するとともに、話や文章の構成や展開について理解を深めること。	○[知識・技能 (1) オ] ・「頭括型」「尾括型」「双括型」の構成法を理解している。 【まとめの記述】	(教) 教科書の「意見文の例」を活用する。 (指) 「頭括型」「尾括型」「双括型」の構成法を確認し、例文から「双括型」のよさを考えさせる。		①	トレーニング編
			(1)言葉の特徴や使い方に関する事項 (2)情報の扱い方に関する事項 (3)我が国の言語文化に関する事項				2年	(2)	ア	意見と根拠、具体と抽象など情報と情報との関係について理解すること。	○[知識・技能 (2) ア] ・意見と根拠の妥当性や、根拠の信頼性と客観性について理解している。 【意見文シート】	(評) 自分の意見を支える根拠を具体的に示しているか、確かな事実や事柄に基づいた根拠であるか、反論とそれに対する意見を示しているかを確認して評価する。		② ③	
学びに向かう力、人間性等に関する評価 (主体的に学習に取り組む態度)						[主体的に学習に取り組む態度] ・粘り強く根拠の適切さを考え、今までの学習を生かして自分の考えが伝わる意見文を書くようにしている。	(評) 個人追究や仲間との関わりの中で根拠を吟味する姿を評価する。	⑦	実践編						

※「評価規準・評価方法等」の記号…○記録に残す評価、◇指導に生かす評価 ※「留意点 他」の記号…(指)指導に当たっての留意点、(評)評価に対しての留意点、(他)他の学習活動のアイデア、(教)教材・教具の工夫

六、本時のねらい

教科書の例題を使って、自分の根拠に対する反論と、それに対する意見を考えることで、説得力のある書き方ができる。

七、本時の展開（三／九）

導入	学習活動	研究に関わって
<p>◆「学びの地図」を用いて、前時の学習を振り返る。</p> <ul style="list-style-type: none"> 自分の意見を最初と最後に示すと分かりやすい。⇒双括型 意見を支える適切な根拠を複数挙げる必要がある。 信頼できる情報でなければならぬ。 <p>◆意見文の例を参考にして、説得力を高める工夫を捉える。</p> <ul style="list-style-type: none"> 反論を想定して、それに対する意見が示されている。 ↓自分とは違う立場の視点からも考えている。 <p>◆課題をつかむ。</p> <p>より説得力のある意見文にするために、反論に対する意見を書こう。</p> <p>◆自分の意見に対する反論を選択する。</p> <p>〔賛成意見に対する反論の例〕</p> <ul style="list-style-type: none"> 郡上市は人手不足だから、夜中の営業は困難だ。 高齢者が多く、夜中の利用者が少ないため不必要だ。 近所への騒音、照明問題に繋がるため控えてほしい。 <p>〔反対意見に対する反論の例〕</p> <ul style="list-style-type: none"> 深夜や早朝に活動する人もいるため営業してほしい。 緊急時の備えになるため営業すべきだ。 「白鳥おどり」、「スキー場の営業」など夜の観光も多い。 <p>◆反論に対する意見を考える。</p> <p>この考えに対して、郡上市は人手不足で働く人がいないため、二十四時間営業は困難だという意見があるかもしれない。しかし、石川県白山市白峰地区で見た無人販売システムを導入することで、人手不足が解消できると考える。</p> <p>しかし、夜中の緊急時のために二十四時間営業を行うべきだと主張する人もいるだろう。とはいえ、それはあくまでも緊急時に利用するだけであり、日常的に利用するわけではない。緊急時に備えて、日頃から用意をしておけば解決できると考える。</p> <p>◆同じ立場の三人グループで交流し、反論に対する意見が適切であるか考える。</p> <p>〔視点〕反論に対し、納得できる解決方法が示されているか。</p> <ul style="list-style-type: none"> 働き手が少ないことに対して、白峰地区に設置されていた無人販売システムを導入するという解決方法が示されている、納得できた。 利用者が少ないという反論に、ロボットを使ってコンビニを運営するという主張は論点がずれていると思う。 <p>◆全体で取り上げた生徒の変容を確認し、まとめる。</p> <p>反論とそれに対する意見を付け加えることで、より説得力のある意見文にすることができる。</p> <p>◆振り返りのアンケートに答える。</p> <p>反論に対する解決方法を提示することで、多くの人に納得してもらええる意見文にすることができた。○○さんは、人手不足だという反論に対して、無人販売システムを導入すればよいと考えていた。的確な解決方法で「なるほど」と思った。実際に郡上市に対する意見文を書くときも、反論とそれに対する意見を付け加えることで、より説得力のある意見文にしていきたい。</p>	<p>教師の働きかけ・指導・援助</p> <ul style="list-style-type: none"> 前時の振り返りを紹介することで、「双括型」による構成や、複数の根拠を挙げることでよって、説得力が高まることを押さえる。 説得力を高める方法がさらにないかを考えるために、反論とそれに対する意見が付け加えられているモデル文を提示する。 モデル文を使って反論想定がされていることに気付かせ、本時の意識付けを行う。 生徒の前時までの記述をもとに反論の例を提示し、生徒がその中の一つを選択できるようにする。 反論想定を提示するときには、「たしかに」や「もちろん」、「く」という意見もある、「くかもしれない」などの表現が活用できることを提示する。 <p>〔交流の仕方〕</p> <ul style="list-style-type: none"> まず、書き手がその反論を選択した意図を話す。次に、読み手が視点に沿って気付いたことを伝える。 反論想定を付け加えることで、異なる立場の人に対しても、説得力が増す意見になることを押さえる。 <p>・「自分」、・「仲間」、・「今後」の三つの視点で振り返ることで、自己の変容を捉えたり、今後の主体的な学習を促したりすることをねらう。</p>	<p>●研究内容(1)①</p> <p>単元構想表に基づいて、生徒に付けた力を明確にして指導を行う。本時では反論に対する意見を記述する力を身に付けられるようにする。</p> <p>生徒自身も学習の見通しをもてるように、「学びの地図」を活用して学習していく。</p> <p>●研究内容(2)②</p> <p>「実践編」でより意見に説得力のある文章を書くために「トレーニング編」を位置付けた。書くことが苦手な生徒が確かな力を身に付けられるようにするために、反復して取り組めるように設定する。</p> <p>●研究内容(1)②</p> <p>生徒が総合的な学習や生徒会活動を通して経験したことやそこから考えたことを生かして、意欲に繋げていきたい。</p> <p>●研究内容(2)①</p> <p>タブレット端末を活用し、加除修正が行いやすい学習方法で行う。生徒の抵抗感を減らし取り組みやすいようにする。学習シートを用意し、苦手な生徒の手掛かりにしていきたい。</p> <p>●研究内容(3)①</p> <p>小集団での交流によって、反論とそれに対して納得できる意見が書けているかを評価し、学びを実感できる場を設ける。</p> <p>終末に自己を振り返る時間を設ける。本時で気付いたことやできたこと、仲間と関わる中で自分の変容、今後に生かしたいことを記入し、次時への意欲を高めたい。</p> <p>評価規準【思・判・表B【ウ】】</p> <p>根拠の適切さを考えて反論想定を加え、自分の意見が伝わる文章にしている。（ワークシート）</p>
<p>展開</p>	<p>展開</p>	<p>展開</p>
<p>終末</p>	<p>終末</p>	<p>終末</p>